

乳幼児期の子どもは、日々の生活における様々な経験を通して、新たな世界に出会い、感じたり、考えたりしながら学びをひろげていきます。

その土台となるのが、乳児期の育ちです。

乳児や 1、2 歳児など発達過程の初期にある子どもにとっては、何よりもまず一人ひとりの子どもが快適に生活でき、健康で安全に過ごし、生理的欲求が十分に満たされることが大切です。

そして、子どもの様々な欲求に対して、おとなは、愛情豊かに、応答的※に関わることで、愛着のあるおとなへの安心感を基地として、自分の身近な環境に向かって探索をはじめようようになります。

このように、一人ひとりの子どもが大切に育まれることが、教育が成り立つ大前提です。

また、0 歳児から就学するまでの乳幼児期の子どもの成長は、生涯の中でも最も著しい時期ですが、一人ひとりのペースはそれぞれ違います。

乳幼児期の発達の段階を十分に理解し、個人差に応じた教育を大切にします。

伊丹市は、すべての就学前施設において、保護者や地域の方と協働する中で、「愛情」「自然」「ことば」を柱にしながら、次のことに取り組み、幼児教育を充実させていきます。

※応答的…子どもの心の動きを、表現や動き、その場の状況などから読み取り、こたえるような関わり方

